科目名	ミクロ経済学Ⅰ　　Microeconomics Ⅰ						
科目担当者	宮下 稔規　　MIYASHITA Toshiki						
単位数	2	配当年次	1年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科［区分］ 他学部他学科履修	経営学部・経営学科［専門教育科目　基礎専門科目］ 法学部・法律学科［専門教育科目　関連科目］					ディプロマポリシーとの関連	(4),(2)
授業の概要	ミクロ経済学とは個人（家計）や企業など個々の経済主体の意思決定について分析する学問である。この授業では需要曲線と供給曲線について理解した後、価格決定のメカニズムについて学習する。その後需要の決定要因として消費者の効用最大化問題、供給の決定要因として利潤最大化問題について学習する。最後に完全競争市場における余剰分析を行い自由な意思決定の下での均衡は余剰を最大にすることを学習する。またその自由な市場へ政府が介入を行うと非効率が発生することを余剰分析により明らかにする。						
授業の到達目標	①　需要曲線と供給曲線について理解し、価格決定のメカニズムを説明できる。 ②　需要の価格弾力性について説明でき、価格の変化が支払額へ与える影響を分析できる。 ③　効用関数と予算制約線から最適な消費行動を図示できる。 ④　価格や所得の変化から財の需要量へ与える影響を説明できる。 ⑤　企業の費用構造から AC, AVC, MC を導出し、利潤の最大化条件を説明できる。 ⑥　完全競争市場の定義を理解し、総余剰の概念を用いて市場の効率性を説明できる。 ⑦　財に対して課税を行ったときの市場の効率性を説明できる。						

授業計画・内容		
	1	授業ガイダンスミクロ経済学について
	2	グラフのみかたと需要曲線
	3	供給曲線と市場均衡
	4	需要の価格弾力性
	5	消費者の行動① 効用関数と無差別曲線
	6	消費者の行動② 予算制約と機会費用と最適消費点
	7	消費者の行動③ 価格・所得の変化と消費量の変化
	8	復習と中間課題
	9	企業の行動① 費用関数と AC, AVC, MC
	10	企業の行動② 利潤最大化行動と最適生産量
	11	企業の行動③ 独占企業の行動
	12	余剰分析①　市場の効率性
	13	余剰分析②　課税の影響
	14	余剰分析③　自由貿易の効率性
	15	まとめ

授業外学修 (事前学修)	教科書の該当部分を読み込み、専門用語など独学で理解できなかった箇所をまとめておくこと。（毎週 2 時間程度）
授業外学修 (事後学修)	授業内で扱った内容や練習問題を中心に復習を行うこと。 特に練習問題に関しては自分一人で解くことができるように復習を行うこと。 （毎週 2 時間程度）

成績評価方法・評価比率・到達目標との対応	成績評価方法	評価比率	到達目標との対応
	中間課題 期末試験	40% 60%	①②③④ ①②③④⑤⑥⑦

成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合
教科書	ダロン・アセモグル，デヴィッド・レイブソン，ジョン・リスト 著，岩本康志 監訳 『アセモグル/レイブソン/リスト ミクロ経済学』，東洋経済新報社
参考文献	神取道宏 著『ミクロ経済学の力』，日本評論社 資格試験研究会 編『新スーパー過去問ゼミ 6 ミクロ経済学』，実務教育出版
その他	公務員試験で経済学が必要な学生は受講することを進める。